

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32635

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16619

研究課題名(和文)近代仏教学と帝国日本 - 仏教国益論に関する基礎的研究 -

研究課題名(英文)Modern Buddhist studies and the Empire of Japan: Buddhist theory to the national interests under the Total War Regime

研究代表者

三浦 周 (MIURA, Shu)

大正大学・仏教学部・非常勤講師

研究者番号：60646222

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、単一文化主義の証明という視点からではなく、ナショナル・アイデンティティとグループ・アイデンティティの交錯、ここから現代的課題である多文化主義の指標を明らかにするため、学事資料・歴史公文書の調査・分析を通じて、戦時下における大正大学の(1)皇道仏教研究所(1938-45)、(2)東亜学(1942-46)、(3)伝道学(1933-44)、総力戦体制下における(4)官民の学術研究助成(仏教学関連)、(5)仏教青年会(大学関連)の実態解明をおこなった。

研究成果の概要(英文)：This research elucidates the historical facts of these activities: (1) Institute of Buddhism of Imperial Way at the Taisho University '大正大学皇道仏教研究所' in 1938-45, (2) East Asian Studies '東亜学' at the Taisho University in 1942-46, (3) Study of promote of Buddhism '伝道学' at the Taisho University in 1933-44, (4) Government and Non-Government Funded Researches '学術研究助成' for Buddhist studies under the Total War Regime (5) Yong Buddhist Associations '仏教青年会' under the Total War Regime. Moreover, methods of this research are based on the intersection of the group identity and the national identity that derives the multicultural standard.

研究分野：近代仏教史

キーワード：護法 仏教国益論 大学 近代仏教学 総力戦体制 皇道仏教 戦時教学

部)・翻刻(一部)をおこなった対象は以下である。

①大正大学学事資料(分類は『大正大学年史資料目録』(1986)による)

・総2-48「官庁往復文書」、52「文化事業部関係書類」、53「官庁往復文書(甲)」、54「官庁往復文書(乙)」、56「官庁往復文書」、61「文化事業部関係書類」、63「官庁往復文書」、68「官庁往復文書」、76「官庁往復文書」、80「官庁往復文書」、85「精神科学研究奨励関係文書」、92「学生諸機関調」、94「官庁往復文書」、107「官庁往復文書」、121「日誌」、126「官庁往復文書」、127「官庁往復文書」、132「官庁往復文書」、139「官庁往復(甲)」、140「官庁往復(乙)」、149「官庁往復」、163「文部省外関係文書」、172「文部省関係書類」、180「川口教場運営経過報告」、185「新制大学に関する書類」、187「文部省報告書類」、236「新制大学に於ける学生部活動の理念と実際」。

・会2-3「協議員会議事録」、4「評議員会決議録」、5「理事会、評議員会決議録」、7「教員総会議事録」、10「総務会記録」、11「理事会、評議員会決議録」、12「総務会記録」、13「制度調査会」、14「総務会議案」、15「総務会綴」、16「総務会関係書類」、17「総務会議案」、18「総務会記録」、19「総務会記録」、20「総務会議録」、22「総務会記録」、23「総務会記録」、24「理事会決議録」、26「総務会書類」、27「総務会協議録」、29「理事会記録」、31「総務会議事録」、32「主任会議事録」、37「総務会記録」、40「総務会記録」、42「総務会記録」、47「総務会記録」。

・大正大学図書館業務日誌。

・『大正大学一覽』大正15年度、昭和4年度、6年度、8年度、11年度、13年度、15年度、16年度、19年度。

・『大正大学々報』(1928-1942)。

・『明照学舎三十年史』(大正大学明照学舎三十年記念誌刊行會、1938)。

・『僧伽』(大正大学明照学舎舎報)。

・その他 報知新聞社編輯局『大学教授評判記』(河出書房、1935)等。

②学術研究助成

・歴史公文書「外務省記録／東方文化事業／講演、視察及助成／研究助成関連雑件」。

・吉田熊次・本田弘人『文科諸学の研究及奨励に関する調査報告』(1940)。

・『財団法人啓明会事業報告』(1918-1943、1939欠)。

・財団法人斉藤報恩会『事業年報』(1926-1941)。

・財団法人服部報公会『事業報告』(1925-1945)。

・聖徳太子奉賛会「乙項研究給費生」(横山太郎『聖徳太子奉賛会史』永青文庫、2010)。

・帝国学士院『学術研究奨励資金及事業一覽』(1931-1935、1934欠)。

・『帝国学士院一覽』大正2年度、4年度、6

年度、7年度、8年度、1年度、12年度、13年度、14年度、15年度、昭和2年度、3年度、4年度、5年度、6年度、7年度、8年度、9年度、11年度、12年度、13年度、15年度、16年度、17年度、18年度、19年度、20年度、21年度、22年度。

・『日本文化協会要覧』昭和12年度、13年度。

・日本文化協会『事業概要』(1943)。

・『日本学術振興会三十年史』(1998)。

③東亜仏教大会／中国人留学生積墨禪

・歴史公文書「外務省記録／東方文化事業／講演、視察及助成／本邦人満支視察旅行関係雑件」。

大正大学学事資料(会2-9「議事録(理事会)」、11「理事会、評議員会決議録」等)。

④仏教青年会

・『佛教青年會調査表』(全日本佛教青年會聯盟、1934)。

・『学内団体一覽』(文部省教学局、1940)。

・東京帝国大学仏教青年会『青年仏教叢書』(1935-1941)。

⑤宗門系大学図書館調査

・龍谷大学図書館

・大谷大学図書館

・佛教大学図書館

(2) 分析・成果

本研究では、駒込武・奈須恵子・川村肇編『戦時下学問の統制と動員』(東京大学出版会、2011)等で示された動員史観を踏まえ、戦時の総力戦体制下における大学・仏教学の実態解明を以下の項目からおこなった。

①大正大学

動員史観ではマルクス主義のみならず自由主義までが外来思想として日本精神と対置される。大正大学では新興仏教青年同盟運動(妹尾義郎ら)や真理運動(友松円諦ら)の影響も認められるが、その運営は概ね文部省教学局による行政指導に準じていたといえる。その具体例が皇道仏教研究所の設置(1938)と東亜学科の開設(実質的な開講は1941、認可は1942)である。この設置・開設の経緯・内実(活動・講義内容等)を前掲の資料から明らかにした。

また、総力戦体制下における大学の資源化を教職員の意見および学生の所感、あるいは学内の宗教行事から大学の寺院化と捉え、近代的方法論(歴史と言語)の導入によって乖離した教・学がここにおいて再統合されたとみて、これを皇道仏教・戦時教学の意義として後掲の図書②にまとめた。

この皇道仏教・戦時教学の具体例として、中野隆元の伝道学をとりあげた。中野は言語の規範性によって「口舌の末技」とされていた布教を権威づけ、これを体系化して伝道学として完成させた。中野の講義では、将来、大東亜共栄圏が確立し、その共用語として日本語が一般化した際、共栄圏の盟主国である

帝国日本、その臣民である日本人、特に僧侶が方言話者であったならば、布教の価値は損なわれ日本仏教を貶めるという趣旨のもと、国語（標準語）の教授がおこなわれていた。これをまとめたのが後掲の雑誌論文②である。

②学術研究助成

近代仏教学の形成と展開をみるに際し、学説の変遷に注目すれば自家撞着に陥るか、あるいは、いわゆる「近代の断絶」問題が生じる。本研究では近代仏教史を演繹する護法をプレ近代思想として通時的にみる立場をとるため、その評価軸を内にではなく外におく。そのひとつが学術研究助成である。ここでは助成目的が公益、あるいは国益におかれる。そのため、その獲得は社会的評価に直結する。こうした視点から、国家による学術研究助成のみならず民間の助成も対象とし、戦前における仏教学関連への学術研究助成を概括した。

対象としたのは、有栖川宮記念学術奨励資金・外務省対支文化事業・財団法人啓明会・財団法人斉藤報恩会・財団法人末延財団・財団法人東照宮三百年記念会・財団法人服部報公会・財団法人原田積善会・聖徳太子奉賛会・帝国学士院・財団法人日本学術振興会・日本文化協会・松方公爵米寿祝賀記念奨励資金・文部省精神科学研究奨励金・吉田奨励資金財団の15団体である。

ここでは1914 - 1945のおよそ30年間で、のべ128名の研究者による145件の研究が採択されている。これは全採択研究のおよそ1割である。これをまとめたのが後掲の雑誌論文③である。

③東亜仏教大会／中国人留学生積墨禪

これについて歴史公文書・大正大学学事資料を調査したが、新たな知見をもたらす資料は確認できなかった。この作業において得られた成果は、

- ・大学を基調とした近代仏教学における佐伯定胤の特異性（佐伯は大学に依拠しない。これは学術研究助成においても確認できる）。
- ・中国近代仏教において人間仏教を主唱した太虚法師の弟子である積墨禪、その帰国後の生存確認（沈雲龍主編『近代中国史料叢刊』第九十二輯『太虚大師寰游記』（中文）の著者に積満智とともに積墨禪の名がみえる）の2点である。

④仏教青年会

③で新たな知見が得られなかったため、研究目的「超宗派組織による国際交流」に基づき仏教青年会に着目した。これは既に中西直樹・林行夫・吉永進一・大澤広嗣によって『汎太平洋仏教青年会大会関係資料』（不二出版、2016）等も刊行されている。

ただし、従来の研究は仏教青年会を青年による青年運動として能動的に描く。だが、和崎光太郎『明治の〈青年〉』（ミネルヴァ書房、2017）によれば、青年概念は明治30年代に発達論的視点が導入され政治的存在から対

処されるべき存在へと変容している。また、近代仏教学の形成と展開においても、大学と仏教学が国家に動員され皇道仏教・戦時教学を生じさせた際、その受け皿となるのは学生であった。これらを踏まえれば、非青年による青年論、受動的な存在として仏教青年会をみる必要がある。

こうした新たな研究課題（仏教青年の誕生・変容、如何に動員対象とされたかの実態解明）に基づき、本研究では戦前の大学（専門学校含む）における仏教青年会を前掲の資料から概括した。結果、大学関連の仏教青年会は52校（うち大学31校、専門学校21校）56団体であることが判明した。これは旧制専門学校の1割以下、旧制大学の6割以上に仏教青年会が存在したことを意味する。これをまとめたのが後掲の雑誌論文①である。

以上の点から、近代仏教学の学問史構築のための一端を明らかにした。本研究は内的な学説ではなく外的な制度等から近代仏教学の形成と展開にアプローチするため、隣接諸領域、あるいは他宗教との比較研究を積極的に可能とする。また、国家と大学の錯綜、つまり、ナショナル・アイデンティティとグループ・アイデンティティの関係をみることは、単一文化主義の確認ではなく現代の多文化主義をはかる指標の提示となるだろう。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

- ①三浦周「近代における仏教青年会運動」、『佛教文化学会紀要』第27号、印刷中、査読あり、2019 予定。
- ②三浦周「戦時下における伝道学と標準語 - 中野隆元を中心として - 」、『佛教文化学会紀要』第26号、pp. 1-18、査読あり、2018。
- ③三浦周「戦前における学術研究助成の一考察 - 仏教学を中心として - 」、『蓮華寺佛教研究所紀要』第10号、pp. 33-84、査読なし、2017。

〔学会発表〕（計 4 件）

- ①三浦周、「近代における仏教青年会運動」、佛教文化学会、2017。
- ②三浦周（江島尚俊）、「護法から国益へ - 総力戦体制下の大正大学を中心に - 」、第6部会パネル：総力戦下の宗教系大学・専門学校における「理念」の変質、日本宗教学会、2017。
- ③三浦周「「社会」に対峙する仏教学 - 大正大学を事例として - 」、佛教文化学会、2016。
- ④三浦周「近代仏教学とアジア主義」、佛教文化学会、2015。

〔図書〕（計 2 件）

- ①廣澤隆之・下田正弘・藤田一照・三浦周（ほか7名）、「「宗学」再考に関する試論」、『日本仏教を問う』、pp. 20-39、春秋社、2018 予

定。

②三浦周「「社会」と対峙する仏教学 - 戦時下における大正大学を中心として -」、江島尚俊・三浦周・松野智章編『戦時日本の大学と宗教』、pp. 309-352、法蔵館、2017。

〔その他〕

ホームページ等

江島尚俊・三浦周・松野智章編『戦時日本の大学と宗教』書評（櫻井義秀・北海道大学教授、『週刊読書人』第3189号）

<https://dokushojin.com/article.html?i=1339>

江島尚俊・三浦周・松野智章編『戦時日本の大学と宗教』書評（藤田大誠・國學院大学教授、『宗教研究』91巻2号）

https://www.jstage.jst.go.jp/article/rsjars/91/2/91_281/_article/-char/ja

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三浦 周 (MIURA, Shu)

大正大学・仏教学部・非常勤講師

研究者番号：60646222

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし

(4) 研究協力者

吉澤秀知 (YOSHIZAWA, Hidetoshi)

大正大学・仏教学部・非常勤講師

研究者番号：00646391